

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第五小学校

【国語】全国学力調査結果を受けて

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読書の時間などに主体的に読書に取り組む児童が多いが、絵本や文字の大きい本を好む傾向が強い。 ○自分の考えや思ったことを文章でまとめられる児童は多いが、自分の考えを伝えたり、相手の考えを生かして自分の考えを深めたり、広げたりすることが苦手な児童がいる。 ○自分の考えや文から分かったことをまとめて書くことが苦手な傾向にある。 ○既習・新出、問わず漢字学習が苦手と感じる児童が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学年相当の本を選んで読む経験が少ない。高学年向けの本を読む経験を積み重ねる必要がある。 ○自分の考えを伝える場面を多く設定するだけでなく、聞き手として考えながら、相手の思いを聞き取ろうとする経験を積み重ねる。 ○話の中心を捉えることに課題がある。文章や話の内容を的確に押さえて読んだり、自分の考えを明確にして読んだりする指導を充実させる。 ○文字のもつ意味や部首などについて理解させる。既習、新出ともに書く経験の積み重ね、および定着の細かな確認を行う。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館司書や地域の図書館と連携をし、高学年向けの本を多く読む経験を重ねる。本を紹介し合ったり、読み聞かせの機会を充実させたりして、たくさんの種類の本に触れさせる。 ○話し合い活動を充実させ、相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする機会を設ける。また、話すときや聞くときの視点を明確にして、目的に沿った話し合いができるようにする。話し合いの話形を提示し、話し合いの仕方の指導を継続して行う。 ○新聞等を用いて、多くの情報から必要な情報を選択したり、文章を要約したりする力を付ける。話や文章の要旨を捉え、分かりやすくまとめたり、自分の考えを読み手を意識して書いたりする指導を行う。 ○宿題やつくしタイム等で漢字を書く習慣を身に付けさせる。小テストをくり返し実施し、定着状況の確認をこまめに行う。